

令和元年度 第1回 平塚市図書館協議会 会議記録（要旨）【公開用】

開催日時	令和元年8月1日（木）15時40分～17時00分
開催場所	平塚市中央図書館3階ホール
出席者	委員 竹之内 禎 会長 小林 利幸 副会長 鈴木 由美子 委員 掬川 舞子 委員 跡部 左恵 委員 久保田 幸子 委員 事務局 高橋 社会教育部長 小林 中央図書館長 本名 北図書館長 佐伯 南図書館長 菊坂 奉仕担当長 高橋 管理担当長 杉山 管理担当主査 田畑 奉仕担当主査 平原 奉仕担当主査 高島 管理担当主任
欠席者	なし
傍聴人	3名

議 事

（1）図書館協議会委員の職務

事務局から資料の説明を行った。（2～4ページ）

図書館協議会の法的根拠を説明後、前期の協議内容として、子ども読書活動推進計画（第三次）の中間評価、図書館の運営体制、「平塚市図書館サービス方針」の策定などを説明した。また、前期協議会からの提案を受けて、図書館設置70周年記念キャラクターの制作及びLINEスタンプの販売、大学講師による講義と実技をあわせたランニングイベントの開催、親子参加型イベントとして、子ども読書活動推進フォーラムの内容の見直しを行ったことを報告した。

（2）令和元年度（平成31年度）平塚市図書館予算の概要と事業計画

ア 令和元年度（平成31年度）平塚市図書館費歳入歳出予算の概要

事務局から資料の説明を行った。（5～7ページ）

当初予算について、歳入は2,639千円を計上しており、前年度の自動販売機管理料及びその他雑入の実績をふまえ下方修正している。歳出は189,742千円を計上しており、北図書館の空調設備修繕による支出の増加もあるが、総額で前年度より減額している。

イ 令和元年度（平成31年度）平塚市図書館事業計画

事務局から資料の説明を行った。（8～11ページ）

「図書館におけるボランティア体験を通じた不登校・ひきこもり改善・自立支援事業」は、令和元年度（平成31年度）から新規に実施する事業であり、特定非営利活動法人「ぜんしん」（以下「ぜんしん」と）協働で実施する。

【 委 員 】 「図書館におけるボランティア体験を通じた不登校・ひきこもり改善・自立支援事業」についてだが、学校でも子どもたちに必要な支援をするため努力をしているが、近年不登校の子どもたちが増えてきている現状もある。この事業は、令和元年度から新規に実施するということだが、図書館の本事業について、詳しく聞きたい。

【 事 務 局 】 本事業は、「ぜんしん」から提案を受けた市民提案型協働事業である。既に「ぜんしん」ではひきこもりの方のための相談窓口を用意する等の活動を行っている。今回はさらに進んだ社会復帰のプログラムとして、外での活動により

	子ども達が社会に貢献するという自信を持つ機会として、公共の場を使った活動の実施提案を受けた。実際に「ぜんしん」の代表の方には、図書館で書架の整理や本の修理を体験してもらっており、令和元年度の市民提案型協働事業として認められた。本年度は主に図書館と「ぜんしん」で情報交換を行いながら実施マニュアルを作成する予定である。
【 会 長 】	このような事業について、例えば市のウェブサイトや広報で内容を確認することはできるか。
【 事 務 局 】	「ぜんしん」のホームページで、「ぜんしん」の行っている活動の内容は確認できる。今回の協働事業については、情報提供も含めて今後検討していく。市全体の協働事業は他にも様々なテーマのものがああり、担当課のホームページでどのような事業があるか紹介されていると思う。

(3) 平塚市図書館の利用状況

ア 平塚市図書館の貸出点数、来館者数

事務局から資料の説明を行った。(12～13ページ)

平成30年度の全館の来館者数合計は平成29年度と比較して3.7%減少の649,457人となったが、平成30年度の全館の貸出点数合計は平成29年度と比較して3.2%増加の1,410,572点となった。これは貸出可能点数を各館7点から全館で15点に緩和したことが要因であると考えられる。結果として、来館者数は減ったものの、貸出点数が増えたことで利便性は上がったものと考えられる。

イ 地区図書館の紹介

事務局から資料の説明を行った。(14ページ)

主に各館の施設概要、運営形態及び各館それぞれの蔵書等の特徴等説明した。

(4) 前期図書館協議会からの申し送り事項及び今期のテーマ検討

ア 平成29年～30年度図書館協議会からの申し送り事項

事務局から資料の説明を行った。(15ページ)

「図書館の運営体制の検討」「図書館増収策の検討」「国立国会図書館等との電子資料閲覧サービスの評価検討」「大学講師を招いた講座の要望」「図書館施設の活用等」「事業の広報やPRによる図書館利用の拡大」等の事項が前期の図書館協議会から申し送りがあった。

【 会 長 】	「図書館の運営体制の検討」「図書館増収策の検討」「国立国会図書館等との電子資料閲覧サービスの評価検討」については今期も引き続き検討していきたい。特に「図書館の運営体制の検討」は大きなテーマなので、この事項を中心に検討したい。他にも何かあれば、適宜検討していきたい。
---------	--

イ 民間活力の活用に向けた進捗状況

事務局から資料の説明を行った。(16～19ページ)

平塚市行財政改革計画(2016-2019)において、図書館業務に民間活力を活用することを位置づけている。平成30年度から計画に位置付けたものは「中央図書館等窓口業務への業務委託導入」、「地区図書館への指定管理者制度導入」、「移動図書館の在り方の検討」の3つである。各事項について、各担当者から説明した。

【 会 長 】	民間活力の活用という聞き慣れないかもしれないが、現状図書館の運営を市が直営で行っている中で、一部の業務を民間会社に委託することによって経費の削減につながるという手法がある。全国的にも実施している自治体は多く、うまく活用できればメリットがあるが、逆にサービス低下を引き起こす懸念もある。民間のノウハウを活かしてクリエイティブな事業が期待できる面も
---------	--

	あるが、逆にデメリットとなりうる面もあり、市民の方が不安視する可能性もある。この場で丁寧な説明をもらい、意見を出していきたい。
【 会 長 】	「移動図書館業務の在り方」の検討項目に郵送サービスと挙げられている（19ページ）が、すでに宅配サービスを行っている自治体の一部ある。例えば調布市では、ボランティアの方が自転車で宅配を行っている。他市と同じように実施するというのは難しいかもしれないが、検討の一つに入れていただきたい。
【 副 会 長 】	平成30年度 of 取組状況の中で、中央図書館窓口業務の中に仕様書の作成とある（16ページ）が、仕様書は既に完成したのか。
【 事 務 局 】	仕様書の作成は、平成30年度に着手し、8～9割完成している。細かい見直しを現在行っている途中である。
【 副 会 長 】	中央図書館の窓口業務の中で、直営として残す主な業務（18ページ）の中に、図書資料の選書、購入業務がある。図書以外にも図書館には様々な資料があるが、図書に限定した理由は何か。
【 事 務 局 】	図書だけに限定しているのではなく、図書館で扱う資料全てを考えている。（訂正：18ページ2行目 図書資料→図書館資料）
【 会 長 】	図書館法上の定義では、視聴覚資料等その他含めて図書館資料と呼ぶ。
【 委 員 】	中央図書館の窓口業務の一部を民間事業者へ委託とあるが、委託先の民間事業者は例えば人材派遣会社等になるのか。
【 事 務 局 】	図書館の窓口業務を専門的に行っている会社があるので、専門的に行っている会社を想定しているが、公募を行う際にはできるだけ広く募るので、業種を限定することはしない。
【 委 員 】	他の図書館の状況はどのようになっているのか。
【 事 務 局 】	例えば、海老名市立図書館では指定管理者制度を、伊勢原市では窓口委託を既に導入している。
【 副 会 長 】	窓口業務の委託についてノウハウを持っている会社もあれば、ノウハウを持っていない会社もある。後者が参入する事例もあるので、しっかりと選定しないと後々問題になった事例もある。
【 委 員 】	委託業者というのは、例えば入札等で何年か毎に代わるものなのか。
【 事 務 局 】	他市の事例をみると、最近の入札ではなく公募型というかたちで各社から提案を募り、その中から行政側に合うものを、審査会等を経て事業者を選定するプロポーザル方式が多く、その場合は3年間というケースが多い。
【 事 務 局 】	平塚市についても、プロポーザル方式で各社から提案をもらったものを審査会で選んでいくことを考えている。入札というかたちで金額面だけでは決めない。
【 委 員 】	中央図書館の窓口業務の中で、直営として残す主な業務の中に「ボランティアと協力しながら行う事業」を項目の中に加えてほしい。（訂正：18ページ7行目後に追加 「ボランティアと協力しながら行う事業」）
【 会 長 】	民間活力の活用等の図書館の運営体制を検討していく中で、知識がないと判断がかなり難しい面もあるので、参考資料等があると望ましい。共通の考え方、基盤を持っていきたい。
【 事 務 局 】	次回の協議会等で委員の方の意見を聞きながら、必要な資料を提供していきたい。

【 会 長 】 市民の方の関心も高いと思うので、細かく分かりやすい情報提供をお願いしたい。

(5) 平塚市子ども読書活動推進計画(第四次)策定について

ア「平塚市子ども読書活動推進計画(第四次)」策定までの流れ

イ「平塚市子ども読書活動推進計画(第四次)」たたき台

事務局から資料の説明を行った。(20～21ページ、冊子)

第四次計画は本市の「総合計画」及び「第2期教育振興基本計画」との整合を図りつつ、国の「第四次子供の読書活動の推進に関する基本的な計画」や県の「第四次神奈川県子ども読書活動推進計画」も参考にしながら、策定作業を行う。様々な組織の意見を聞きながら、基本的には第三次計画を引き継ぎ、平成29年度に実施した第三次計画の中間評価の課題を整理し、第四次計画に反映させたい。次回図書館協議会で第四次計画の素案を諮り、12月にパブリックコメントを実施、3月の計画完成を目指している。

【 委 員 】 たたき台の内容についての意見は、決められた書式で回答すればよいか。

【 事 務 局 】 後日、回答の書式をメールでお送りするので、8月23日を目途に回答していただきたい。

【 会 長 】 特に意見をもらいたい部分等はあるか。

【 事 務 局 】 現時点で例えば「このような事業を行ってほしい」といった意見やたたき台の構成全体として気になる部分等意見をいただければと思う。8月9日に平塚市子ども読書活動推進懇話会を開催し、その場でもたたき台の内容について諮る予定である。今後、各委員からいただいた意見を元に素案を作成したいと考えている。

【 会 長 】 計画書に入るかどうかは別として、事業の提案等を回答してもよいという認識でよいか。

【 事 務 局 】 そのように考えている。現段階でなるべく多くの意見をいただきたい。

【 会 長 】 では後日回答書式を送ってもらい、委員には回答をお願いしたい。

(6) 今後の予定

・第2回平塚市図書館協議会

令和元年10月17日(木) 14時

閉 会